

編集後記

平成 24 年度初等教育学科紀要をお届けいたします。今年度は、7 本の論文を掲載することができました。ご高覧いただいております通り、初等教育学科教員が専門とする分野は多岐にわたっています。教育、保育に携わる人間となるためには、子どもの理解、教育の方法のみならず、人としての教養や魅力がなければなりません、教員が取り組む研究の多様性は、学生の幅広い知見や人格を育むことに不可欠なことではないかと思えます。

さて、恒例の初等教育学科 1 年間を振り返ってのトピックスです。平成 23 年度は 104 名の新入生と 2 名の編入生、大学院は 5 名の新入生を迎えてスタートいたしました。初等教育学科は毎年 4 月に、学寮研修を行います、昨年度は東日本大震災を受けて学寮の大規模な点検整備、避難マニュアルの作成が前期中にあったため、初めての 10 月実施となりました。秋の自然に囲まれながら、3 泊 4 日の研修生活を送りました。11 月の秋桜祭では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育所保育士として活躍されている卒業生を招いてのシンポジウムが学生主催で行われました。今回で 3 回目となりますが、学生たちの先輩方の立派な姿に接して多くの刺激を受け、将来を考える良い機会となりました。

3 月には、2 週間のアメリカ初等教育研修がボストン昭和を拠点に行われました。1, 2 回目の研修の様子は前年の初等教育学科紀要に掲載しましたが、今回参加した学生はこれまででもっとも多い 25 名でした。ボストン近郊の小学校、幼稚園、保育園で数日間の実習を体験しました。学生たちの達成感、充実感と言うまでもありませんが、実習先の先生方からも非常に高い評価を得ました。「学生たちは、子どもたちが理解しやすいようプログラムに工夫を重ね、できる限りの準備をしてきてくれた。そして、彼女たちはみな暖かくフレンドリーな心を持ち、個性豊かで、なによりも、子どもたちみんなを愛している気持ちをはっきり伝えようとする意欲にあふれていた」という嬉しい感想をいただきました。この研修も、ボストン昭和のスタッフと毎年検討を重ねて良いプログラムになってきました。今後初等教育学科の特色としてさらに充実させていきたいと考えています。

3 月 18 日、2 年ぶりに大学全体での卒業式が行われました。前年は、震災直後でもあり、各学科でのささやかな卒業式となったのです。巣立っていった卒業生 108 名、修士課程の修了生は 5 名でした。式では一人一人名前を呼ばれて学長より卒業証書をいただくのですが、初等教育学科の学生の返事はどの学科よりもはっきりとしていて立派でした。未来を切り拓いていこうとする卒業生たちの逞しさが表明されているようで頼もしく感じました。

そして 4 月、初等教育学科 102 名、編入生 4 名、大学院 1 名の新入生を迎え、平成 24 年度がスタートしました。

最後になりましたが、いつも丁寧で精緻な編集作業をして下さる近代文化研究所編集室のみなさまに厚く御礼申し上げます。

編集委員

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

〒154-8533
東京都世田谷区太子堂一ノ七
電話 03 (三四一一) 五三〇〇

発行所 昭和女子大学
近代文化研究所

印刷所 三秀舎
編集発行人 山田 潔
平成二十四年五月二十日 印刷
平成二十四年六月一日 発行

学苑 八百六十号

定価 八四〇円 (本体八〇〇円)
購読料 一カ年分 一〇〇八〇円
(本体 九六〇〇円)